

## 第 46 回

# 関東・東北ブロック研究会会報

<http://jsabs.hs.plala.or.jp/>

2019 [平成 31] 年 2 月 16 日 (土)、大妻女子大学において、第 46 回関東・東北ブロック研究会が開催された。総会后、研究発表、実践事例発表をはじめ、全国大会の統一テーマ「AI 時代とビジネス実務教育」に向けて、当ブロックでは「AI 採用最前線」を軸として、ビジネス実務教育や就職支援のあり方について、昨年に続き基調講演とバズセッションを連動させる全員参加型の運営を通し、活発な意見交換を行った。



### 総会あいさつ

#### 「新しい芽吹き」

関東・東北ブロック研究会リーダー  
宮田 篤 (青森中央短期大学)



2018 年度よりブロックリーダーを拝命致しました宮田です。他にもサブリーダー、運営委員

で交代された方がいらっしゃいますが、木々が年輪を刻みながら新しく芽吹く時を迎えるように、ブロックもよき伝統を継いで参りたく存じます。

また、本年 6 月には全国大会を当ブロック担当で、会場は目白大学短期大学部にて開催致します。当ブロックでは昨年度から AI をテーマに掲げてまいりましたが、本日は全国大会との統一テーマ「AI 時代とビジネス実務教育」を取り上げます。AI、IoT、ビッグデータ無くしてこれからの教育もビジネスも語ることができない時代に突入しております。本日はシンクタンクから、人材採用に特化した AI エンジンを用いたツールとサービスを担当されている基調講演者をお

招きしました。講演だけでなく、その後のバズセッションを通し、ビジネス実務教育に関わる私たちのこれからについて、共に学びを深める一日となりますよう、よろしくお願い致します。

### 基調講演

**AI 採用最前線～AI 優先度診断サービス「PRaiO」にできること、できないこと～**  
株式会社三菱総合研究所 主任研究員  
小原 太 氏

三菱総合研究所 (MRI) で AI エンジン「HaRi」開発チームを率いる小原氏を講師にお迎えし、企業の採用活動における AI 活用の最前線事例をご講演いただいた。

「HaRi」は人事業務 (HR=Human Resources) に特化した AI エンジン。「HaRi」を活用したエントリーシート優先度診断サービス「PRaiO (プライオ)」は、第 3 回 HR テクノロジー大賞 (2018) において「業務変革サービス部門優秀賞」を受賞した。

#### ◆人事領域における AI/人工知能活用の動向

人事分野のテクノロジーは「HR Tech」と呼ばれ、AI は以下の 3 業務において導入が進む兆しがあるという。今後は入社後のメンタルダウンや

休職の予防にも AI の活用が期待される。

- 1) 採用活動
- 2) 配属・異動・チーム組成
- 3) 教育・研修



◆マイナビ×MRI が提供する「PRaiO」とは？

マイナビと三菱総合研究所が共同開発した「PRaiO」は、エントリーシート（以下、ES と表記）の文章を AI が評価するサービスである。

開発の背景には、「人が手分けして読むと、担当者によって評価基準が一定しない」「大量の ES を読むのに膨大な時間がかかる」「苦勞して内定を出しても辞退者が出る」など、人事部門が抱える課題があった。PRaiO を導入することで、ES の評価に客観性・統一性をもたせることができる。また、PRaiO は 1 万枚を数分で解析できるので、浮いた時間を面接などに充てることができるという。

PRaiO が予測できるのは、①優先度（これまでの採用基準に照らして「読むべき ES」を 5 段階で示す）、②人物像（ES の記載内容をもとに、「コミュニケーション」「リーダーシップ」など



バスセッションまでご参加くださった小原氏

6 項目でスコアリングし、どんな学生なのかを把握できる）、③辞退可能性（これまでの実績に照

らして、辞退する可能性を 5 段階で示す) である。

過去の採用実績に基づいて評価するた

め、AI の評価を優先しすぎると採用する人材が均質化していく恐れがある。そのため「AI は優先度を高く評価したが、実際に会って面接した結果不合格になったケース」も学習に用いているとのこと。また、人事担当者が評価基準をカスタマイズできる機能を搭載することで、AI につきまとう「ブラックボックス性」と「非制御性」を解決している。

なお、導入するためには、AI に与える教師データとして一定数以上の ES が必要となる。また、企業が採用時に何を重視するかによって予測精度に差が出る。毎年採用基準を変更するような企



業では予測精度が低くなる可能性があるという。

質疑応答では、AI が文章の内容をどの程度理解して評価しているかについて質問があった。PRaiO では独自の辞書を整備して単語の意味を理解することができるが、文章同士のつながりや論理的な文章展開となっているかなどはまだ判断できていないという。また、文章のどこを重視するかは企業ごとに異なるが、語彙力やファクトベースでの記述などが合否へどのように影響するかを分析しているとのことであった。

## 個人研究発表

### 技術革新に伴うビジネス環境の変化に関する考察 — AI 技術を中心に —

大島 武 (東京工芸大学)



近年の急速な技術革新がビジネス環境、ビジネス実務にどのような影響を与えているの

か、AI (人工知能) を中心に考察を展開した。AI という概念の誕生から今日までの簡単な流れを確認し、R. カーツワイル、T. ダベンポート、新井紀子、山口高平らの言説を紹介したうえで、AI と AI 技術を区別することの重要性を強調した。

また、オックスフォード大学と野村総合研究所の研究をベースに、AI による人間の仕事の代替の問題について試論を展開した。最後にビジネス実務研究として取り組むべき課題の例を挙げ、まとめとした。独自の知見というより、これまでの考察を整理・レビューした内容であったが、示唆に富む質問を多数受けることができ、発表者にとっても良い気づきの場となった。午後の基調講演の前座的役割、6月の全国大会に向けての思考整理に多少なりとも役立ったなら幸甚である。

## 実践事例報告

### 地方の未来に大学ができること

～まち・ひと・しごと・女性・未来という5つの視座～

安齋 徹 (目白大学)

大学における社会貢献は研究・教育に続く第3の柱として認識されているが、地方創生の文脈の下、社会連携活動は活況を呈し、「地域」を冠した学部も増加している。社会連携活動の目的は、第1に地域貢献、第2に研究成果の還元、第3に学生の成長であり、このうち地域貢献の意義について考察した。

筆者は企業人を経て大学教員に転身し、2012年から6年間、群馬県立女子大学に奉職し、多種多様な社会連携活動等を展開した。改めて政策との整合性を確認するために、群馬県の総合計画「はばたけ群馬プラン」を参照した。その結果、「まち」(地域との連携)、「ひと」(人材育成)、「しごと」(就職促進と産業振興)、「女性」(女性の活躍推進)、「未来」(政策提言)という5つに分類することで、個々の社会連携活動等を県の総合計画に掲げられた主要政策に紐づけすることができた。従って、地方の未来に向けて大学ができることを考えるに当たっては、上記の5つの視座が有効であると考える。



## バズセッション

### テーマ：「AI時代のビジネス実務教育と人材育成」

澤田 裕美 (大妻女子大学短期大学部)

関東・東北ブロック研究会の恒例となったバズセッション。特に昨年度からはAIをテーマに取り上げ、基調講演 → 質疑応答 → バズセッションまで (そして懇親会まで)、講演講師の小原様にも引き続きご参加をお願いし、一層の



情報共有を図っております。ファシリテート役3年目の澤田先生による絶妙な進行も相まって、今回も積極的な意見交換が行われました。

ゲスト参加者に企業の採用担当の方もいらっしゃる中、さまざまな角度からの情報交換がで



きました。そして、学会、関東・東北ブロックとしては、やはり高等教育機関の立場から、

ビジネス実務教育・人材育成にAIがどのように関わっていけるのかについて模索することが必要なのだと、改めて実感させられるセッションとなりました。

教育者としてのジレンマは、現時点での学生との関わりから得られた改善を、リアルタイムでフィードバックすることの難しさと、同じ改善が別の学生にどの程度適用可能なのかという予測の困難さにあるのではないのでしょうか。AIには、このタイムラグを軽減する可能性を感じます。6月の全国大会に向けて一段と機運が高まる中、有意義な一日の幕を閉じました。

## 研究会を終えて

### 第46回関東・東北ブロック研究実行委員長

宮田 篤 (青森中央短期大学)

今回は大妻女子大学のアクティブラウンジという新会場で、34名(会員23名、ビジター11名)の参加者を得て開催されました。総会に続き、研究発表1件、実践事例報告1件が行われ、特に研究発表はAI技術とビジネス環境の変化に関するレビューでもあり、研究会のテーマ全体の端緒となりました。

基調講演には、三菱総合研究所主任研究員の小原太様をお招きし、「AI採用最前線～AI優先度診断サービス『PRaiO』にできること、できないこと～」と題してご講演を賜り、エントリーシートの「優先度、人物像、辞退可能性」などを診断するツールとサービスの最前線を窺い知ることができ、さまざまな学生支援への可能性を感じました。質疑応答を30分間と長めに設定しましたが、質問が途絶えることなく、参加者の関心の高さを感じさせる意義深い時間となりました。



恒例のバズセッションも含め、ご参加くださいました皆様に心から感謝申し上げます。

### 編集後記

☆基調講演の後、バズセッションだけでなく懇親会までお付き合いくださいました小原様、ありがとうございました。

☆ブロック研究会にご参加くださった皆さま、本当にありがとうございました！！前回は引き続き「AI」がビジネスや教育に与える影響について議論を深めることができました。AI関連の書籍は多数出版されていますが、こうして議論をする機会は本当に貴重ですね。(編集担当 木村信綱)

第46回実行委員長 宮田 篤 副委員長 安齋 徹

運営委員(50音順・順不同): 安齋徹、大島武、大塚映、上岡史郎、木村信綱、金世煥、小松由美、齋藤裕美、澤田裕美、周藤亜矢子、坪井明彦、長谷川美千留、宮田篤